

7	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15108002	解毒・排出器官としての消化管—食品因子によるその制御機構の分子基盤解析	清水 誠 (東京大学・大学院農学生命科学研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>食品の生体調節機能のうち、消化管における解毒、異物代謝、排泄に関して基礎的な研究を展開し、ニガウリの抽出物中より異物排出トランスポーター活性に影響する食品因子としモノグリセリドを同定した。また、解毒機構において重要な異物排出トランスポーターの活性調節機能を利用した食品機能の評価系を構築した。さらに、プロテアソームを介した新規な解毒酵素誘導機構を発見した。これらの成果は、食品・栄養科学において高く評価されており、研究は順調に進捗しているものと思われる。今後、細胞分子レベルの研究成果を、個体レベルの研究にと発展させることを期待する。</p>				
8	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15108003	魚介類におけるDNAマイクロアレイを用いた遺伝子発現情報解析手法の開発	青木 宙 (東京海洋大学・大学院海洋科学技術研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究で開発が行われているDNAマイクロアレイ法は、これまで個々の細胞で個々の遺伝子発現を解析していた生命現象を、これまで行ってきたEST解析により得られた遺伝子情報をネットワークシステムとして網羅的に研究する手法へ発展していく期待が持たれるものである。本課題のこれまでの成果では特に生体防御関連遺伝子に焦点を絞り、研究目的にあった結果が得られているものの、研究の半ばであるためか研究の内容がやや散漫な印象を少し持つ。しかし、その成果は概ね順調であり、しかも今後の研究計画ではさらに焦点が絞られてきており評価できる。今後の一層の発展を期待したい。</p>				